昭和医科大学学士会後援セミナー

文化の壁を越えて届ける医療
～MAYUKO 先生と考える多様性時代の医療～

本間　繭子　先生
オーストラリア　リモートエリアナース，フリンダース大学元教員

主催：昭和医科大学大学院保健医療学研究科
2026 年 10 月 19 日　17：00～18：45,
昭和医科大学横浜キャンパス 104 教室および WEB セミナー

講師の MAYUKO 先生は、オーストラリアのフリンダース大学での教育経験に加え、北部準州の医療資源が限られた地域において、Remote Area Nurse として看護実践に携わってこられた。今回の講演は、こうした経験を通して、多様な文化的背景をもつ人々に医療を届けることの意味について考える貴重な機会となった。

オーストラリアの遠隔地域では、都市部とは異なる医療環境の中で、住民の健康と生活を支えることが求められる。医療へのアクセスが限られる地域においては、医療従事者が幅広い知識と実践能力を備えるとともに、地域の特性や住民の生活文化を理解することが重要となる。特に、文化や価値観の違いを尊重しながら信頼関係を構築する姿勢は、多様化が進む日本の医療現場においても重要な視点である。また、医療者が適切と考える支援が、必ずしも患者や家族の価値観と一致するとは限らないことを、具体的な事例を通して示してくださった。医療者自身の価値観を一方的に押し付けるのではなく、対象者が大切にしている生活習慣や文化的背景を理解し、対話を重ねながら支援することの重要性を改めて認識した。

Remote Area Nurse の具体的な仕事内容についても紹介してくださった。医師が常駐しない地域において、住民の健康と命を守るための活動は多岐にわたり、日本の看護実践との違いを感じた。プライマリケアから救急対応まで幅広い役割を担い、遠隔地にいる医師との協働や、フライトナースとの連携による病院への搬送にも関わっている。これらの業務の一部は、日本における特定行為研修を修了した看護師や NP（診療看護師）の実践と共通する部分がある。日本はオーストラリアほど広大な国土を有していないものの、今後、誰もが住み慣れた地域で最期まで自分らしく暮らし続けられる地域医療を実現していくうえで、多くの示唆が得られた。

文化や宗教的背景の異なる人々の健康を支えることについても、今後、日本において外国人労働者をはじめ、多様な文化的背景をもつ人々が増加することを考えると、大変参考になる内容であった。MAYUKO 先生は、ご自身の経験を通して、互いの文化や価値観を理解し、尊重し合うための具体的な方法についても紹介された。日常的な挨拶を大切にすることや、相手が理解しやすい言葉を用いてコミュニケーションを図ることなど、基本的な関わりの積み重ねが信頼関係の構築につながることを学んだ。また、地域住民の中心的な役割を担う人が医療チームの一員として参画し、住民と医療者が協働して地域の健康を支えていることも、重要な示唆であった。

本講演会は、海外の看護実践を知るとともに、文化の違いを越えて人々の健康と生活を支える看護の本質について考える有意義な機会となった。今後も国際的な視点を取り入れ、多様な文化や価値観を尊重しながら、地域の人々とともに医療のあり方を考え、よりよい医療を創り上げていくことの重要性を再認識した。（報告　三村洋美）